九州海事広報協会会報
No.200
発行所
(公社)九州海事広報協会
北九州市若松区本町1-13-20
洞海港湾労働者福祉センター1階
電話 093-701-7897
FAX 093-701-7898
https://kaijikoho-kyushu.org/

新年を迎えて

公益社団法人 九州海事広報協会
会長　小笠原　朗

令和８年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には平素より格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

四方を海に囲まれ、世界第６位の広大な管轄海域を有する我が国にとりまして、「海」を活かしていくこと。そして「海」を継承していくことは、非常に大切な課題でございます。

当協会では、国民の祝日「海の日」（７月の第３月曜日：海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う日）や「海の月間」など、海事思想の普及・宣伝や公益事業活動を展開し、一人でも多くの方に『海に親しみ、海の恵みを感じ、海を大切にする心を育てていただくよう。』取り組みを進めています。

昨年の活動につきましては「第62回中学生海の絵画コンクール」は、九州・山口の中学校の29校から、合計197点の応募があり、生徒の心温まる絵画作品を門司港、佐世保、鹿児島で展示、多くの方に鑑賞いただきました。

「船との出会い事業」では、多くの海事行政機関・海事関係団体や企業のご支援・ご協力をいただき、小・中・高・短期大学校の生徒、教員、保護者や幼児等を対象に海運、港湾、造船・舶用工業、倉庫、船舶、船員等の仕事を学ぶ「海事産業見学会」や「海の教室」を開催しました。次代を担う青少年が「海・港・船などで働く仕事」に興味・関心を持ち、海事産業へ進路の選択肢を広げていただけたらと思っております。

併せて、日本海事広報協会主催の「全国ビーチウォーク&クリーンアップ大作戦」では、唐津市内の小学生が旅客船体験乗船でふるさとの島に渡り、地元関係者と協同して海岸清掃活動に取り組みました。

また、（一財）日本モーターボート競走会からの助成を受けて、下関、若松、芦屋、福岡、唐津、大村の各ボートレース場で「日本の海を愛するパネル展」＋「海事体験教室」を開催し、多くの来場者に海事知識の普及を図るとともに、ボートレース事業が果たす社会貢献・地域貢献への理解を深めていただいています。

今後ともその任務・役割の達成に邁進していく所存でございますので、会員の皆様並びに関係の皆様方のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、「海の日」に際し、海事功労者等表彰を受けられた方々、企業、団体等に対し心から敬意を表しますとともに、海事産業の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭の辞

九州運輸局長
日向　弘基

新春を迎え、謹んで御挨拶申し上げます。

九州運輸局では「運輸と観光で九州の元気を創ります」のキャッチフレーズのもと、「持続可能な地域公共交通の実現」、「運輸の安全・安心の確保」、「観光による地域振興」、「人材確保と生産性の向上」という４つの柱を中心に業務を推進しています。この４つの柱に沿って年頭の抱負を述べさせていただきます。

まずは、**「持続可能な地域公共交通の実現」**についてです。

地域公共交通は、地域住民や観光客等の来訪者の移動手段として必要不可欠なものです。

利用者の減少や物価高騰、運転者不足による路線バスや鉄道の減便等により、地域住民や来訪者の移動手段がない、移動手段があっても利用しづらいといった「交通空白」の課題を抱える地域が各地に存在しています。

また、利用者が減少する中、ローカル鉄道のあり方を含め、地域にとって望ましい公共交通のあり方をどのように再構築するか地域の関係者を中心とした真剣な検討が各地で進められています。離島航路についても同様です。

九州運輸局は、今年も自治体や交通事業者の皆様と連携しながら、喫緊の課題である「交通空白」の解消をはじめ、移動手段の確保・利便性の向上、離島航路の維持・改善に向けた支援に取り組んでまいります。

次に、**「運輸の安全・安心の確保」**についてです。

鉄道・自動車・海上交通の輸送の安全を確保し、誰でも安心して利用できるよう、今年も、各分野の取組を進めてまいります。

鉄道・自動車分野では、まず、鉄道・軌道について、運転・施設・車両の安全性向上に向け、必要に応じ監査・指導、検査を的確に実施します。

また、自動車については、事業用自動車について、重大事故やインシデントの防止に向けた指導・監督や情報共有の促進、安全運行の励行と安全意識の高揚に加え、人身事故や死傷者数の削減、飲酒運転の撲滅を関係各所と連携して進めるとともに、マイカーを含めた自動車の登録・検査の充実・点検整備の推進に取り組みます。

海上交通分野については、知床遊覧船事故を踏まえた「旅客船の総合的な安全・安心対策」に関する取組の一環として、今年４月から、すべての小型旅客船・遊漁船の船長に対する新制度による特定操縦免許の取得が義務化されるとともに、安全統括管理者・運航管理者の選任要件が強化されます。こうした新たな安全規制を着実に実施するとともに、引き続き監査・検査を厳格に執行し、海上交通を安心して利用できるよう、取り組んでまいります。

次に、**「観光による地域振興」**についてです。

九州各地には、関係者の皆様のご尽力により、温泉や食はもちろん、自然、歴史、文化面で優れた観光資源を活かした、世界に訴求しうる素晴らしい体験コンテンツが豊富にあります。

一方、地域人材の確保・育成や生産性向上、二次交通対策、地域住民の満足度向上等、九州観光の「持続的な成長」を実現する上での課題も少なくありません。

今年度中に策定予定の観光立国推進基本計画（第５次）を踏まえ、幅広い観光関係者の皆様と連携して、これらの課題の解決を通じた「誰もが何度も訪れたくなる九州観光」の実現に向け、取組を加速してまいります。

最後に、**「人材確保と生産性の向上」**についてです。

運輸・観光業界の持続可能な発展には人材の確保と生産性向上が不可欠です。

人材確保については、引き続き、関係行政機関や業界団体等と連携し、社会人、学生、子ども、退職予定自衛官を対象とする各種セミナーや説明会、運転体験会等の取組を継続するとともに、女性活躍の機会を増やすため、「ジェンダー主流化」の浸透を図る取組を進めてまいります。

また、生産性の向上については、省人化にも資する自動運転車両や自動操縦船舶の実用化に向けた技術的・財政的支援をはじめ、交通・物流・観光のＤＸ・ＧＸを推進してまいります。

九州運輸局は、運輸と観光で九州の元気を創るために、今年も、各地域が抱える課題解決に向けて、関係自治体、事業者に寄り添い、連携しながら、九州の未来を切り拓いてまいります。

結びに、九州の発展と皆様の御健勝・御多幸を祈念し、新年の御挨拶といたします。

日本海事センター補助事業
船との出会い事業
海事産業見学会
★ご支援・ご協力をいただきました皆様、大変ありがとうございました。

「船との出会い事業」

▼９月25日（木）津久見市立津久見中学校１年生82人、教諭８人
・（海事教室）「出前授業、旅客船体験クルージング」
・主催：大分運輸支局、九州海事広報協会
・協力：津久見市、津久見港運協会、津久見地区海運組合、大分県立海洋科学高等学校

出前授業「海・船・魚を学ぶなら海洋科学校へ」

▼10月７日（火）北九州市「教育支援室」児童７人、生徒18人、教諭８人、北九州市教育委員会１人
・（海事教室）「出前授業、旅客船乗船体験」
・主催：九州運輸局海事振興部、九州海事広報協会
・協力：阪九フェリー（株）、旭洋造船（株）

旭洋造船（株）：造船所見学

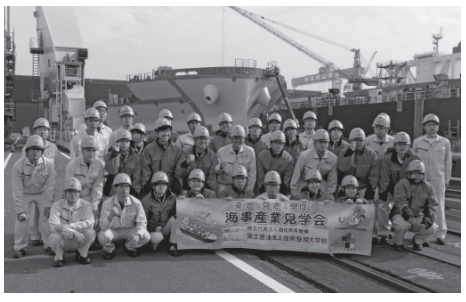
▼10月17日（金）長崎市立野母崎小学校３年生17人、教諭２人
・（海事教室）「造船所見学」
・主催：長崎運輸支局、九州海事広報協会
・協力：福岡造船（株）長崎工場

福岡造船（株）長崎工場：造船講義

▼11月19日（火）国立唐津海上技術短期大学校航海専科１年生43人、教諭２人
・（海事教室）「舶用工業見学」「造船所見学」
・主催：佐賀運輸支局、九州海事広報協会
・協力：（株）名村造船所伊万里事業所、東亜工機（株）

「Ｊ－ＣＲＥＷプロジェクト～やっぱり船が好き～造船所見学会」

▼12月10日（水）玉名市立横島小学校５年生33人、教諭２人
・（海事教室）「造船所見学会」
・主催：全日本海員組合、国際船員労務協会
・協力：ジャパン マリン ユナイテッド（株）有明事業所、熊本運輸支局、日本海事広報協会、九州海事広報協会



（株）名村造船所伊万里事業所：集合写真

全日本海員組合「Ｊ－ＣＲＥＷプロジェクト講座」

ボートレース場等を活用した海事知識の普及事業

（一財）日本モーターボート競走会：受託事業

【実施状況】

ボートレース大村

９月27日（土）ＧⅢオールレディース　開催時

１階キッズルーム前で海事広報パネル展示、お子様イベントとして写真撮影が出来る「こども船長体験」の実施やラッキーボックス抽選を行い「日本丸賞」は「花の種子」、及び「海の日賞」は「６色クレヨン」を景品として進呈し、多くの家族連れで賑わいました。子供たちは船の「塗り絵」や「内航船ペーパークラフト」を製作等して、海の大切さや海や港の仕事を楽しく学びました。

併せて、ボートレース事業が果たす社会貢献・地域貢献への理解を深めていただきました。

ボートレース大村「パネル展」＋「海事体験教室」

海事広報イベント

「大分みなとまつり」（大分市大在（おおざい）地区）

11月２日（日曜日）に大分港で「大分みなとまつり」が開催され多くの方が来場しました。大分運輸支局は海事産業の役割やクルーズ船の魅力などのＰＲを行うイベントブースを出展しました。当日は海事関係団体の大分県港運協会、日本内航海運組合総連合会、九州地方海運組合連合会、日本水先人会連合会、（一財）海技振興センター、（公財）日本海事広報協会、（一社）日本外航旅客船協会、クルーズ船社からご提供のパンフレット（水先人、ぼくと私のシップガイド）、グッズ（マルクンカレー、ペーパークラフト）等を来場者に配布して、海や港の仕事、海事産業の役割、海の交通安全、及びクルーズ船の魅力などを学んでいただきました。

賑わう大分運輸支局展示ブース

第62回 中学生海の絵画コンクール（九州・山口地区）に入選して

《金賞》「静かな港」

佐世保市立
福石中学校　3年
石井　結菜 さん

この度は、「中学生海の絵画コンクール」におきまして金賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

去年、このコンクールに作品を出品したときは銅賞だったので金賞を受賞することができて大変嬉しく思っています。

この作品は、静かな港に浮かぶ漁船と背後の山の姿に心をひかれ、朝の穏やかな時間を表現しました。空や海面に映る光の変化、船の金属的な質感を丁寧に描くことで、自然の美しさと漁師の生活の息づかいを感じられるように工夫しました。全体を落ち着いた色調でまとめ、港町の静けさや時間の流れを表現しました。特に、波の部分は影をよく観察しながら細かく描きました。

出品したときは自分が金賞を受賞するとは思っていませんでした。私がこの賞を受賞することができたのは、たくさんのアドバイスをくださった友達の支えがあったおかげです。これからも頑張って描いていきます。

《銀賞》「夜の船」

佐世保市立
福石中学校　3年
中村　美奈 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」におきまして銀賞という素晴らしい賞を頂けたこと大変嬉しく思います。

私は、去年もこのコンクールに出品し佳作でしたが今年は中学生最後というのもあり、もっと良い結果がでるように頑張ったので銀賞と聞いたとき嬉しさと驚きそして信じられませんでした。

この作品は、夜の船ということもあり、海や空の暗さ、ライトやライトで明るくなっている船の明暗を出すことに苦戦しました。ぼんやりした絵にならないように様々な色を使い船の情報量を増やしたり、白色を使いすぎないように徹底しました。様々な色を使っていくにも不自然にならないように調節を重ねました。

この賞を受賞することができたのは、たくさんアドバイスをくれた友達の支えがあったからこそです。

この度は本当にありがとうございました。

《銀賞》「漁港の舞」

鹿児島市立
東谷山中学校　3年
一野　愛莉 さん

この度は、「中学生海の絵画コンクール」におきまして、銀賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

私にとってこの作品は、中学校部活動において最後に出品する作品だったので、上の賞を目指し、一生懸命制作に励みました。昨年このコンクールに出品した際は銅賞だったので、前回を超える賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。

この作品は、手前の地面やロープに暖色を使い、奥の海や船、空に寒色を使うことで、遠近感を表現しました。また、ロープの躍動感を出すために、縄の一本一本の動きを忠実に再現しました。

私がこの賞を受賞することができたのは、友達や顧問の先生、両親の支えがあったからです。この賞を励みとし、素晴らしい作品が描けるよう努力していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

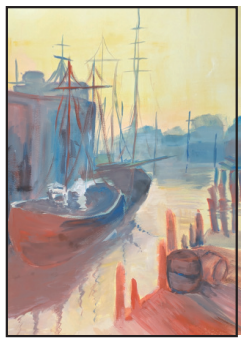
《銀賞》「光の差し込む港」

姶良市立
重富中学校　2年
小湊　丈寛 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において銀賞という素晴らしい賞をいただきうれしく思います。

この作品は細かく色分けをする箇所が多く、苦戦したのを覚えています。奥に並ぶ船や水に反射している船はどのように表現するべきか悩みました。私がこの絵の中で一番上手く描くことができたと思う点は、中央の船です。船の中の物や壁に当たる光や水面に映る船の陰などの細かい色の変化に力を入れました。水面の船の影は一つ一つに色の差ができていて、様々な色を少しずつ混ぜて、船の影などの細かい色の変化に力を入れました。

今回、この賞を受賞することができたのは、細かく教えてくださった美術部の顧問の先生や励ましたりアドバイスしてくれた友だちや家族の支えのおかげだと思っています。この経験を活かして楽しく様々な絵を描いていきたいです。今回は本当にありがとうございました。



《銅賞》「夕やけの港」

大野城市立
御陵中学校　3年
城戸　ひなた さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」におきまして銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思います。

私は去年もこのコンクールに出品しましたが、そのときは佳作という結果でした。自分なりに頑張ったつもりでも、まだ表現が足りないと感じたことが心に残り、次こそはもっと成長したより良い作品を目指して、一年間絵と向き合ってきました。

この作品は遠くの部分を青く、近くを赤みのある色で表現することで風景の奥行と広がりを感じられるよう配色を工夫しました。また、色同士のつながりや濃淡にも注意を払い、なるべく自然に見えるよう描きました。

今回の受賞を機に、自分の表現をさらに豊かにできるよう努力を続けたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

《銅賞》
「海を彩る船」

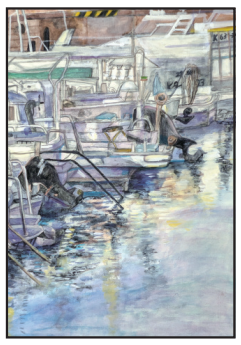
佐世保市立
福石中学校　1年
稗田　喜子 さん

この度は、「中学生海の絵画コンクール」において銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。

今回は、中学校に入って始めてのコンクールで分からないことが沢山ありましたが、先輩方や先生の指導でこのようなすばらしい賞をとることが出来ました。

私がこの作品で工夫したところは、海の深さを表現するため青や緑を重ねて海の深さを表現しました。ほかには、作品の奥ゆきを出すために近くのものを濃く遠くのものは薄くしました。この作品で一番苦労したところは、雲に立体感を出すため色を調節したところです。

この賞を受賞することができたのは先輩方や先生のアドバイスや友達の応援の声などの支えがあったおかげだと思います。これからもこの経験を生かして楽しく絵が描けるようにしたいです。この度は本当にありがとうございました。



《銅賞》「ごちゃごちゃ」

姶良市立
重富中学校　3年
奥江　康樹 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」で銅賞を頂き、とても驚きました。

僕の描いた絵のタイトルは「ごちゃごちゃ」で、港にたくさんの船が集まっている様子と水面に映り込む色や光のにぎやかさを表現したいと思って描きました。船が重なって見える感じや、水面にゆらゆら映る影をどう描くかが難しく、何度も色を塗り重ねたり形を直したりしました。思うようにならない部分もありましたが、自分なりに最後まで描ききったので、今回このような賞を頂けたことがとても嬉しいです。

これをきっかけに、もっと絵を描くことに挑戦していきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

《銅賞》
「波のささやき」

伊佐市立
大口中央中学校　3年
山口　隆之介 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において、銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思ってます。

私は去年もこのコンクールに出品し、佳作をいただきました。今年は、去年よりも良い賞が取れるように頑張って描いたので銅賞と聞いた時、とても嬉しく思いました。

この作品は、濃淡をつけることに気をつけて描きました。波は濃い色から薄い色へと変化させることで遠近感のある海を表現しました。また、船の立体感を出すために、光と影のコントラストを強調させました。

この賞を受賞することができたのは、一生懸命アドバイスをくださった顧問の先生方、お互いに学び合ってきた部活の仲間達、支えてくれた両親のおかげです。これからもこの経験を生かして、更に良い作品を描けるよう努力したいです。この度は本当にありがとうございました。

《銅賞》「夜明けの散歩」

伊佐市立
大口中央中学校　2年
中島　花菜 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において銅賞という素晴らしい賞を頂けたことを大変嬉しく思っています。私は、このコンクール作品の制作は初めてで、不安だったのですが、銅賞に入賞できたと聞き、とても嬉しかったです。

この作品は、全体を暖色系で描きました。そして逆光になっている船や花壇の花弁など、細かい所を意識して丁寧に描きました。また、船は灰色をベースに、赤や紫を使い、人影や船の照明などを表現したりして、朝方であることをイメージしながら描きました。この風景画を制作する中で、細部まで描くことにこだわったため、何度も心が折れかけたときがありましたが、美術部の顧問の先生や部員の仲間たちのアドバイスを受け、最後まで奮闘することができました。

今回の賞を励みに、これからも良い作品を描いていきたいです。本当にありがとうございました。

《銅賞》「緑黄の呟き」

伊佐市立
大口中央中学校　2年
髙橋　瑠葵椰 さん

この度は「中学生海の絵画コンクール」において、銅賞という素晴らしい賞を頂けたことをとても喜ばしく思います。私は、このコンクールにむけて初めて作品を制作しました。「このコンクールのレベルは高いよ」と描く前に先輩から教えてもらい、少し心が強張りましたが、それと共に気合が入りました。

この作品は、元となる船を見たときに感じたオーラを表現したくて描きました。そして空を夕暮れ色に塗った時、なんだか少し寂しげな切なさを感じました。そして、その中にある船の力強さを感じられるように工夫しようと思いました。船の上部は、繊細さを表すために細かく色を重ねて塗っていき、船の下部になるにつれて迫力を表すため大胆に塗っていきました。また、夕日に照らされて細やかに光る海や遠くの建物の大きさにも工夫して描きました。アドバイスをくれた顧問の先生や見守ってくれた仲間に感謝しながらこれからもこれ以上の作品を描けるよう努めていきます。

「九州海事広報協会ホームページについて」

九州海事広報協会HP（https://kaijikoho-kyushu.org）に活動内容、海の日絵画展受賞作品などを掲載してますので、どうぞご覧ください。

九州海事広報協会

謹賀新年

本年もご支援のほどよろしくお願い申し上げます
令和八年　元旦

公益社団法人
九州海事広報協会

会長　小笠原　一朗
副会長　伊東　純一
副会長　辰元　隆
理事　鹿毛　同
監事　幸一郎
事務局　同